



人口減少対策とともに「税の在り方」を考えるきっかけとなる授業がありました。

7/6(水)3年社会科の授業で租税教室が開催されました。市は、租税教育に関する協議会を設立して、租税に関する知識普及とともに、納税意識の向上も図る目的で、市内の児童生徒に啓発事業を展開しています。今回も、その協議会を通じて専門家を招いての講師招聘授業が行われました。市役所税務課に勤務する本校OBの里崎様の講義でした。

講師自作のデジタル資料をもとに、租税の基礎知識から今日的課題まで懇切丁寧に説明してくださいました。その道のプロならではの事例を交えた説得力がある話で、私自身も興味津々でした。興味が高じて、昨年度から引き続きの授業参観となりました。ただ、内容が一新され、市の税制にも触れるなど、生徒の興味関心の喚起に努めていることがひしひしと分かる講義でした。中でも、平戸市の20年後、30年後の人口推計から、人口減少が必至な事実と、それに伴う税収不足の事実を目の当たりにしました。

講義中心で演習には及ばなかったものの、改めて将来に向けた税の在り方考えるひとときとなりました。公民的分野の有意義な学びの場でした。



タブレット端末も併用した講義で資料を振り返る姿がありました。

AED講習会を実施しました。繰り返しの受講で緊急救命に備えています。

前号でお伝えしたAED(Automated External Defibrillator 自動体外式除細動器)に関する記事です。

(台風の勢力しだいでは臨時休業も危ぶまれた)7/5(火)保健体育科の授業で学年ごとにAED講習会を実施しました。「長崎っ子の心を見つめる」教育週間の締めくくりとして企画され、市の消防署(田平)から講師をお招きして、専門家直伝の講習会を行いました。AED講習は、小学校でも実施していますが、繰り返し学び直しを行うことにより、「いざ」という有事に備えて確実にスキルを身につけることを目的として受講しています。

単にAEDの使用方法を教えるだけでなく、少人数に分かれて事例を引き合いに出しての丁寧な説明があった上で基本動作を学ばせるなど、実践に生かされる指導に、専門家から学ぶメリットを大いに感じるものでした。中でも、びしょ濡れだった場面での対処は、私自身も考えさせられ(体育館での受講だったにもかかわらず)臨場感迫るものがありました。

最後(写真:右)に、全体指導があり、海水浴シーズンを前に「水の事故」にも触れられていました。場所によっては、監視員がいなかったり、脱衣所が閉鎖されたりと、海水浴場と言えども「コロナ」の影響が未だに反映されていることが分かりました。このことから、海水浴は保護者同伴で行くことが賢明だとも感じました。夏休みを迎えるにあたり、どうぞ、ご一考願います。

